



通巻 175 号
[令和4年9月発行]

【今後の当山行事予定】

秋季大祭 9月28日



- 御本尊御開扉
大護摩供【本堂】
〈午前〉6時・10時・
11時30分
〈午後〉1時30分・3時



- 大般若經転読付
大護摩供【本堂】
午前11時30分



- 柴燈大護摩供
午後1時 開始



- 瀧不動堂護摩供
【瀧不動堂】
午前9時頃～
午後2時頃
(時刻は瀧不動堂山伏に)
(直接お尋ねください)

七五三詣り 10月1日～11月末

(下記の仏具磨きの日・大掃除の日を除く)

- 七五三祈祷会【本堂】
・平日
〈午前〉7時・10時・
11時30分
・土・日・祝
〈午前〉10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時



納め不動 12月28日

- 御本尊御開扉
大護摩供【本堂】
〈午前〉6時・10時・
11時30分
〈午後〉1時30分・3時



※行事予定は9月1日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

■日々のお護摩祈祷

- 平 日 … 〈午前〉7時・10時・11時30分
- 土・日・祝 … 〈午前〉7時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時
- 毎月28日 … 〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時
- 仏具磨きの日 … 午前 7時

■交通安全祈願

午前9時より午後4時までの毎時0分・30分(30分毎)
(毎月28日・10月13日は交通安全祈願のお勤めはございません。)

■仏具磨きの日のお知らせ

●9月26日 ●10月25日 ●11月25日 ●12月26日
この日は仏具磨きの日ですので、お護摩祈祷は朝7時のお勤めだけです。

■大掃除のお知らせ

10月13日に、本堂・諸堂の大掃除をいたします。
当日はお護摩祈祷は午前7時のみ、交通安全祈願のお勤めはありません。

令和4年9月発行
通巻175号

●発行所：瀧谷不動明王寺
〒584-0058 富田林市彼方 1762 電話 0721-34-0028 振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純光 ●編集人：荒谷純栄



いろは歌

ある寺に参拝した折のこと。その寺の参詣者用下駄箱には「いろはにはへ」と大きく表記されている。私とほぼ一緒に靴を脱いでいた幼子は、小さな靴を手に「いろ、は」と言いながら下駄箱を吟味している。おそらく平仮名を覚えたてだろうか、自分が知る文字を見つけては、嬉々とした歓声を上げている。だがその先に続く文字を読み上げる声は次第に勢いを失つていった。文字から字義へとつなげる力が備わるのはきっともう少し先なのだろう。幼子は下駄箱から控室に置かれているおもちゃ箱に関心を移して去つていった。

ご承知のように「いろは歌」は四十七の仮名を一度ずつ用いて七五調と四句にまとめ上げている。頻繁に使うアルファベットにはこうした意味や仕掛けは全くない。世界中に言語は数多あれども、極めて異色なものに相違ない。しかもなお、その内容が仏教由来の深意に根差していることを知れば、その発想と構成力には舌を巻く。このような類まれなる離れ業は常人のものではないとして、古来よりこの作者は弘法大師空海に帰せられている。高野

ぞ真の菩薩、未来に最高の悟りを成就されること必定なりと讃嘆するくだりである。

遙かなる印度の地、加えて釈尊前世時まで遡る諸行無常偈が、この日本に「いろは歌」として再生している不思議さを覚える人は多かるう。紙幅の都合上、この偈の詳説は別の機会に譲り、今は偈文と「いろは歌」を併記してその妙味を感じてみたい。

【第一句】諸行無常

色は匂へど 散りぬるを

【第二句】是生滅法

わが世誰そ 常ならむ

【第三句】生滅滅已

有為の奥山 今日越えて

【第四句】寂滅為樂

浅き夢見じ 酔ひもせず

(「二十一世紀の感染症と文明」より引用『哲学漫想』所収)

山上には弘法大師の印判が添えられた「いろは歌」の石碑も建っている。

「いろは歌」の深意は諸行無常の哲理にあるが、これは「諸行無常偈」と称して様々な經典に説かれている。中でも『大般涅槃經・淨行品』に説かれる内容は情景も含めて印象深いために別名「雪山偈」ともいう。お釈迦様が前世いたおり、羅刹に身を変じた帝釈天は三世諸仏より伝わる諸行無常偈の半偈を独り唱えた。この偈を修行中に聞いたバラモンはその真理を察知し、その続きを羅刹に懇願する。半偈を教える見返りに羅刹は温かな人肉と生き血、すなわちバラモンの命を要求する。その条件を受け入れたバラモンは丁重なる法座を設えて羅刹から教えを受けた。その瞬間に羅刹は帝釈天に姿を戻しバラモンの体を即座に周囲の石や樹木などあちこちに諸行無常偈を書き刻む。やがて羅刹との約束通り、自らの身を高樹から投じた。その瞬間に羅刹は帝釈天に姿を戻しバラモンの体を救い受け止める。帝釈天を始めとする神々が現じてこれ

は国民の健全な思想であって、間違つても感傷的な虚無主義ではない。現実変革の具体的な知恵と技を發揮しながら、にもかかわらずそれを無常の営み、いざれは塵埃に返るつかのまの達成にすぎないと見明らめる、醒めた感受性なのである。"色は匂へど散りぬるを、我が世たれそ常ならむ"。かな文字を読むすべての国民が学んだこの真実が、今、人知れず反芻され共有されつつあるように思われてならない。」

やや視線を現代社会に移す。世間を席巻させている感染症は多くの課題を私たちに突き付けた。関西出身で常に地元から発信し続けた評論家の山崎正和氏は最晩年、

この慧眼に満ちた文章を読み返し、私が出遭った幼子よ、どうか「いろは歌」の真理に目覚める人になつてほしいと默念するのであった。

秋季大祭

9月28日

大般若經転讀付大護摩供
柴燈大護摩供 嚴修

來たる9月28日、秋季大祭として、大般若經転讀付
大護摩供ならびに柴燈大護摩供が厳修されます。

本堂では、午前11時30分の大護摩供に際し大般若
転讀法要が勤められます。大般若經転讀法要では『大
般若經』六百卷を作法に則って転讀し、世界平和・國
土安穩・五穀豐穰等を祈念し、併せてご参詣みなさ
まのお願い事をご祈念いたします。その後、境内にて
午後1時頃より、瀧峰大護摩講所屬の修験者によつて
柴燈大護摩供が勤められます。柴燈大護摩供では、
添え護摩木を火中に投じ所願成就を祈念いたします。
添え護摩木は当日朝より受付をしておりますので、お願い事とお名前をお書きいただき、お申し込み
ください。



七五三詣りご案内—10月1日～11月末

子供の健やかな成長を祝い無事を願う七五三は、平安時代から鎌倉時代に公家や武家で行われた男女三歳の「髪置」、男児五歳の「袴着」、女児七歳の「帯解」などの儀礼に由来し、江戸時代より七五三として一般的に広まつていったようあります。

瀧谷山では、毎年10月1日より

11月末まで七五三のご祈祷をお勤めしております。皆様のお子様、お孫様のご健勝をお祈りして、どうぞ七五三のご祈祷をお申し込みください。お子様には、ご祈祷を受けられた後、絵馬にお願い事を書いて奉納いたたき、縁起物の千歳飴などをお渡しいたします。期間中は、撮影所をご用意しております。

由にご利用ください。



● 祈祷時刻（お護摩祈祷と併修）

平日………〈午前〉10時・11時30分
土・日・祝……〈午前〉10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

● 授与品

お札・身代守・絵馬・千歳飴・おもちゃ

※10月13日・10月25日・11月25日はお勤め
がございません。



お不動様ご宝前 ロウソク献灯のおすすめ

瀧谷山では、ご信徒の皆様にお供えいただいたロウソク

をお不動様のご宝前に灯明として毎日欠かさずお供えしています。

灯明は古来、仏さまへの最も大切なお供えの一つとされ、さ

まざまなご利益が説かれています。灯明の火は仏さまの智慧の象徴であり、私たちの心を照ら

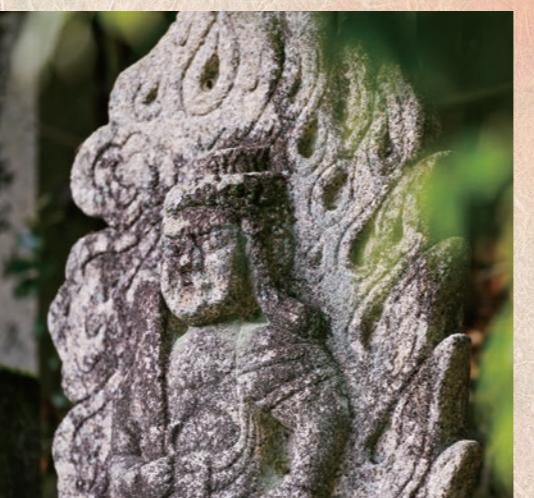
す。ロウソク大 2000円
ロウソク小 500円
受付 お守り授与所

受付 お守り授与所

ロウソク大 2000円
ロウソク小 500円
受付 お守り授与所



瀧谷山の四季①



毎月28日、瀧不動堂では当山所属の山伏たちにより護摩供が勤められています。瀧不動堂では護摩供で焚く護摩木のお供えを受け付けており、お供えされた数に応じて御幣が授与されます。

瀧不動堂護摩供

● 護摩木：1本 300円
(山伏による宝剣加持は直接お尋ねください)
● 毎月28日 午前9時頃～午後2時頃
(詳細な時刻は瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)

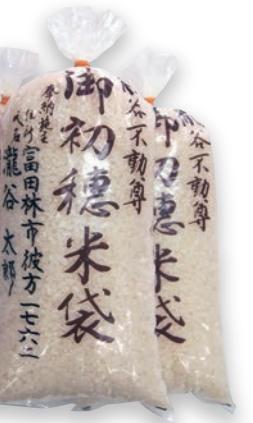
金剛山地に連なる低山帯に位置する瀧谷山。本堂付近の標高は海拔百メートルあまりと言われています。境内にはヤマモモや樺や楠など常緑広葉樹が多く、初夏には野鳥の種類も豊富です。

よく晴れた暑い屋下がり、三宝荒神堂と西国三十三所堂のある觀音山で、「ピヨー ウ、ピヨーウ」という長閑な声が聞こえます。近くでよく聞いていると、合間に「コッコッ コッコ」という小さな鳴き声も聞こえます。コジュケイの親子です。多宝塔や鎮守社の周辺では、朝早くにもうすこし鋭い「キョーッ、キョーッ」という声が聞こえることがあります。アオゲラは背中のきれいな緑色が保護色になつていて、森の中ではかえって見つけにくいようです。

この山報がお手元に届くころには、瀧谷

お初穂米お供えのご案内

し闇を払つて眞実のあり方を見せると言われております。そのため、学業上達・厄除開運のため、お守り授与所にてロウソクを多くいらっしゃいます。



今年もお初穂米のお供えをお願いする時候となりました。

初穂とは、今年の実りに感謝し来年の豊穫を祈念して神仏に捧げるお供えのことです。瀧谷山でも農家の皆様よりその年の新米をご奉納いただいてまいりました。現在ではより広く、お初穂米もしくはお初穂料としてお供えいただいております。

奉納いただいたお初穂米は、節分過ぎまでお不動様ご宝前にお供えして来年の豊作を祈念いたします。その後は毎日のお護摩祈祷でお不動様にお供えし、ご信徒各家の家門繁栄、子孫長久を重ねてお祈りいたします。

お初穂米もしくはお初穂料は、この山報と同封のビニール袋に入れ、封をして寺務所までお持ちください。



御加持水舎 コップ持参のお願い

御加持水舎ではこれまで、共用コップを用意し、コップを紫外線消毒する設備を設置しておりますが、このたび設備の老朽化に伴い、更新が困難なため、やむなく廃止することとなりました。

つきましては10月1日より共有コップを撤去いたしますので、ご利用の方は各自コップやペットボトルを持参いただきますようお願いいたします。



放生——天子になつた魚たち②

瀧谷不動尊に古くから伝わる「身代わりどじょう」。当山のお瀧の川にどじょうを流してあげると、お不動さまがどじょうの姿となつて、厄や災いを持って行つてくれると言われ、瀧不動堂前には今でも、お参りの方のためにどじょうが用意されています。

どじょうや生き物を放してあげることを仏教では「放生」と呼び、たいへんご利益のある行為だとされます。『金光明最勝王經』というお経のなかに、放生のご利益を説く美しい物語があります。ここでは、流水長者という人物が、干上がりつつある池から一万匹もの魚を助けるのです。今回は第2回。

国の名士である流水長者は、あるとき街へ向かう道すがら、今にも干上がりつつある池で、一万匹もの魚たちが跳ねて苦しむ姿を目の当たりにします。そして、「流水」という名前の由来に思いをはせた流水長者は、なんとかしてこの魚たちを助けてやろうと決意しました。さて、この池の水はどこから流れ込んでいるのか、流水がそれを尋ね、さかのぼっていくと一つの大きな河に行きつきます。

その河辺には漁師が数名おりました。なんとこの漁師たち、上流の魚をみな獲つてしまおうと金み、岸の一部を壊し、河の水を捨てていたのです。そのために下流にあった池には水がほとんど流れ込まなかつたのです。この河の崖はなかなかに深く陥しくて、どうしたことだろうか。もしかすると腹が減つていて、食べ物を欲して私の後をついて回るのだろうか？

流水はこのように思い至り、二人の子どもにこう告げます。「よいか、お前たち。先ほどの二十頭の象の中で、いとう力持ちの者を連れて家へ行き、おじい様にもこのことを伝えて家の食べられるものをみんな集めて持つてくるんだ」

二人の子らは父の言う通りに家へ向かい、祖父にかくかくしかじかと伝えると、協力して家中のありつけの食物を象に負わせ、急ぎまた池へ戻ります。

子らが戻つくると流水は喜び、家から持つてきた食べ物の中から餅を取り出し、次々にちぎっては池へ投げ入れます。やがて腹を満たしていく魚たちを見て、流水は願うのでした。

「私はいま、こうして水と餌を施し、魚たちの命をつなぐことができた。しかし、生まれては死ぬ命の繰り返しの中では、今こうして命を救つても、それはほんの一時のことには過ぎないのだろう。できるこことなら来世では、教えを施し、余すことなく、生きとし生ける者を救うことができますように」

確かに流水の思う通り、今この時に苦しむ魚たちを助けることができても、流れ込む川が壊された池は時をおかずには干上

で満ち、本来の姿を取り戻しました。

池の水が元に戻り、ひと安心の流水は、池の周りをぐるりと回つて魚たちの様子を見ます。すると魚たちは不思議と、流水の後を追うように、一緒になって岸辺をぐるりと泳ぐのです。

はて、どうしたことだろうか。もしかすると腹が減つていて、食べ物を欲して私の後をついて回るのだろうか？

「よいか、お前たち。先ほどの二十頭の象の中で、いとう力持ちの者を連れて家へ行き、おじい様にもこのことを伝えて家の食べられるものをみんな集めて持つてくるんだ」

二人の子らは父の言う通りに家へ向かい、祖父にかくかくしかじかと伝えると、協力して家中のありつけの食物を象に負わせ、急ぎまた池へ戻ります。

子らが戻つくると流水は喜び、家から持つてきた食べ物の中から餅を取り出し、次々にちぎっては池へ投げ入れます。やがて腹を満たしていく魚たちを見て、流水は願うのでした。

「私はいま、こうして水と餌を施し、魚たちの命をつなぐことができた。しかし、生まれては死ぬ命の繰り返しの中では、今こうして命を救つても、それはほんの一時のことには過ぎないのだろう。できるこことなら来世では、教えを施し、余すことなく、生きとし生ける者を救うことができますように」

確かに流水の思う通り、今この時に苦しむ魚たちを助けることができても、流れ込む川が壊された池は時をおかずには干上

というほどの規模です。無理やり壊してしまることはできても、きちんと元通りに修復することはたやすくありません。流水たた一人では今からどうにもできないのです。

流水はこれまで来た道のりを慌てて引き返し、国王のいる館を訪ねます。謁見の間に至った流水は、国王に向かい、礼をするや、このように歎願しました。

「国王さま。私はかねてより、国民を病から救うため、尽力してまいりました。実はこのほど、道中にて干上がつた池の中で苦しむ魚の群れを見つけたのでござります。一万匹ほどの魚が日々に照らされ、水もほとんどない池で、今まさに息絶えてしまいそうになつてゐるのです。どうか国王さま、お慈悲をいただきたく存じます。願わくは、二十頭ほど象をお借りし、その池へ水を運び、魚を救つてやりたいのです。私がこれまで病に苦しむ人々を助けたように」

国王はこれを承諾し、大臣に象を用意するよう命じます。

大臣は流水に言います。

「誠に素晴らしい心がけである。どうぞ、象小屋へ赴かれ、意のままに二十頭の象を選ぶのです。そして生きとし生ける者を救うのです」

さて、流水は二人の子とともに二十頭の象を連れ、また途中で、酒造りを営む家に頼み、皮製の水嚢をありつけ借りると水でいっぱいにし、象に運ばせて例の干上がつた池へ急ぎ帰ります。

戻り来て、運んできた水を池に注ぎ入れると、次第に池は水



【身代わりどじょうの放生】

瀧不動堂前には、お参りの方のためにどじょうが用意されており、川に放されたどじょうは、厄や災いを持って行ってくれると言われています。

【山内整備事業】

玉垣ご寄進のお願い

ご信徒皆様には平素より当山の為、格別のご信援を賜り有難く篤く御礼申し上げます。さて瀧谷山では、開創一千二百年記念事業に引き続き山内の整備に取り組んでまいります。そのひとつとして、参道玉垣の整備を計画しております。つきましては次の通り玉垣のお施主様をお募りしたく、ご案内旁々お願いを申し上げます。皆様には何かとご多端の折まことに恐縮ではございますが、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

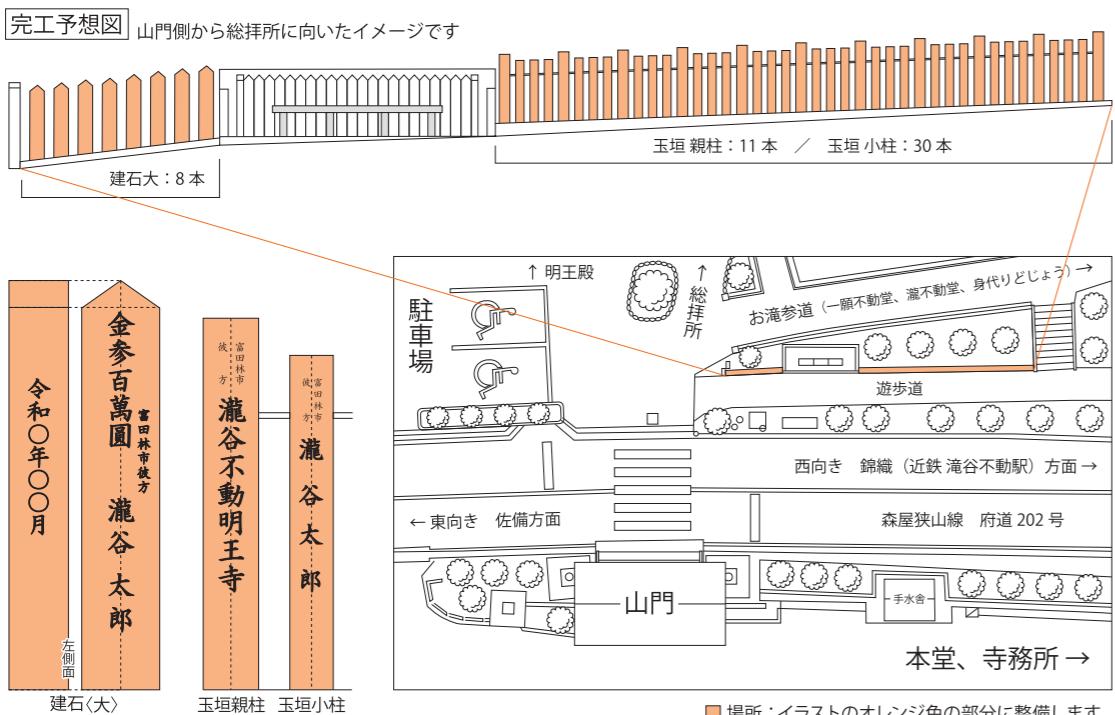
- 玉垣親柱 50万円 11本
- 玉垣小柱 35万円 30本
- 建石〈大〉 300万円以上 8本

※玉垣へは所定の字体で住所(市・区程度)と氏名を刻字いたします。

※連名や、氏名の他に会社名を刻字される場合は、刻字料として二万円を申し受けます。

※建石〈大〉に限り、住所・氏名に加えご志納料を刻字いたします。

会社ロゴ等の刻字をご希望の方には別途ご相談いたします。



先々代の老僧様（私の父のお師匠様）は、とても厳格なお方で僧としての修行はそれは深く積まれた方でしたが、また一方なかなかの文人でいらして、漢籍、書画、お茶、お花、作庭など、はてはお料理までいろいろな分野に造詣が深く、自分でもよく嗜まれました。そんな老僧様を訪ねて全国から大勢お客様が来られました。また老僧様は、そんなお客様をおもてなしされることもとてもお好きでお上手でした。

そんなわけで夏の暑い時期などお客様が来られるとなると「一品は普茶をせよ」と仰せになりました。

「普茶料理」とは、黄檗宗の開祖・隱元禅師がお伝えになつたと

いわれる中国式の精進料理を申します。調理方法がいろいろあるなかでも、こちらではつぎのようないものを「普茶」と称してよくつくつた事を思い出して、今年の五月の大祭には久しぶりに寺院様方のお膳にのせてみました。



材 料

- 人参 ●たけのこ ●椎茸（乾物） ●えんどう ●ピーマン

●人参、たけのこ、戻した椎茸を3ミリほどの巾、4センチほどの長さの薄切りにいたします。

●ピーマンはへたをくりぬいて、中から種を出します。この時破らないよう気をつけます。へたも残しておきます。

作り方

- くりぬいたピーマンは、へたも一緒に油で素揚げいたします。
- そのほかの用意した具材はごま油で炒めてからお昆布のお出しで煮ます。お味はお砂糖を利かして甘くします。調味料はみりん、お醤油などおこのみですが、ごま油とお砂糖を利かせるのがポイントです。お出しの分量は少な目で、とろりと片栗粉で濃いめのあんにじきれるようにします。
- ピーマンの中に煮た具を入れて、へたで蓋をします。

がぶりと大きなお口でかぶりついで召し上がってください。ビールがよくあうことうけあいです。